

土屋道雄

ワープロ時代の
漢字常識
ますます必要になる漢字の知識

一生懸命

所



土屋道雄（つちや みちお）

昭和10年、長野県生まれ。

35年より16年間、國語問題協議會主事として『國語國字』の編集を担当。

39年に評論で「自由新人賞」を受賞。

以後「自由」「歴史と人物」「文藝春秋」「日本及日本人」等に評論を発表、評論家として活躍。

現在、横浜創英短期大学助教授。

著書に

『親と子の漢字教室』（池田書店）

『ことわざ活用辞典』（池田書店）

『福田恆存と戦後の時代』（日本教文社）

『漢字の常識が身につく本』（三笠書房・知的生きかた文庫）

『日本語に強くなる本』（三笠書房・知的生きかた文庫）

『ことばの常識辞典』（日栄社）

『人間東條英機』（育誠社）

『地獄漫遊記』（高木書房）

『日本語よどこへ行く』（日本教文社）

『報道は真実か』（国書刊行会）他多数ある。

ワープロ時代の漢字常識

1995年3月31日 第1版第1刷発行

Printed in Japan

著 者 土 屋 道 雄

©1995年

発 行 者 畠 山 滋

印 刷 所 株式会社 シ ナ ノ

製 本 所 東 京 美 術 紙 工

発行所 株式会社 三 一 書 房

東京都文京区本郷2-11-3

電話 03(3812)3131～5番

振替 00190-3-84160

郵便番号 113

落丁・乱丁本はおとりかえいたします。

三一新書 1111

ISBN4-380-95008-5

ワープロ時代の漢字常識

ますます必要になる漢字の知識

土屋道雄 著

三 一 書 房

はじめに

ひとところ漢字は機械化には不向きであり、いずれなくなるだろうと言っていた学者が、このごろはワープロの宣伝に一役買うようになりました。パソコンやワープロの目覚ましい普及に伴い、文書の作成が容易になった半面、効率よく正確な文書を作成するために、今まで以上に漢字を自在に使いこなす能力が求められています。漢字の音訓をはじめ、部首、同音異義語、同訓異字、類義語、難読語、熟字訓等の知識を必要とします。私は漢字は世界で最もすぐれた文字だと信じており、これからますます重要性をますますだろうと思います。

漢字についてのアンケートを見ますと、大半の人が漢字の重要性や必要性は認めながらも、漢字はむずかしい、おもしろくない、苦手だと答えています。それは今日までの、殊に戦後の学校や家庭における漢字の教え方、学び方に工夫がたりなかったからだと思います。

今までに漢字に関する本は数多く出版されておりますが、そういう工夫がなされているものは少ないようです。

常用漢字一九四五字の中に訓のない漢字が実に七三八字もあります。戦後の無理な音訓制限によ

るところが大きいのですが、音だけ学んでも漢字を正しく使うことはできませんし、熟語の意味を正しくとらえることはできません。意味のない漢字はなく、その漢字の意味を知らなければ、漢字の正しい感覚を身につけ自由に使いこなすことはできないでしょう。

たとえば「援」には訓がなく、「原」には「はら」の訓しか認められていませんが、援に「たすける」、原に「もと」という意味があることを知らなければ、「支援、援助、救援、声援……」「原文、原価、原因、原則……」などの熟語の意味を正確に理解することはできないでしょう。

そういう点に注目して、私はすでに何冊か漢字の本を出版しましたが、本書はさらにいろいろな角度から漢字一字一字の意味を徹底的に学習することにより、漢字を正確に使いこなす実力が身につけられるよう工夫しました。実際に使っていただければ、どれほど時間と手数がかけられているか、またどれほど工夫がなされているか、おわかりいただけれると思います。

本書をみなさんの漢字の実力養成、感覚養成に大いに役立てていただければ幸いです。

平成七年一月

土屋道雄

ワープロ時代の漢字常識辞典

〔目次〕

はじめに.....	3
-----------	---

第一章 部首の意味を知ろう	11
---------------------	----

漢字の分類	12
-------------	----

部首の呼び方と意味	13
-----------------	----

部首から意味をさぐる	26
------------------	----

国字の意味をさぐる	28
-----------------	----

第二章 音符の意味をさぐろう	33
----------------------	----

音の数と訓の数	34
---------------	----

音符あれこれ	36
--------------	----

新旧字体一覧	66
--------------	----

異体字一覧	71
-------	----

第三章 熟語の構成を考えよう	73
----------------	----

二字熟語の構成と分解	74
------------	----

同じ意味の漢字を組み合わせた熟語	75
------------------	----

反対の意味の漢字を組み合わせた熟語	95
-------------------	----

第四章 語彙 ごい を豊かにしよう	109
----------------------------------	-----

同義語と類義語	110
---------	-----

反対語と対応語	120
---------	-----

第五章 熟語の読み方と使い方に親しもう	131
---------------------	-----

音が二つ以上ある漢字	132
------------	-----

意味のつかみにくい熟語	145
-------------	-----

二つ以上の読み方がある熟語	151
---------------	-----

第六章 同音異義語に強くなろう 153

同音で意味の似ている熟語 156

第七章 訓に強くなろう 213

同訓異字の使い分け 214

訓が二つ以上ある漢字 262

熟字訓・あて字 263

ちよつとむずかしい訓 266

動植物名の読み方 269

第八章 訓のない漢字の意味を知ろう 273

訓のない漢字にも意味はある 274

第九章 誤字に敏感になろう 291

音あるいは訓が同じたためにおこる誤字 292

字形が似ているためにおこる誤字

.....

305

第十章 四字熟語になれよう

.....

311

知っておきたい四字熟語

.....

312

第一章

部首の意味を知ろう

漢字の分類

漢字はすべて象形文字だと言えるが、一般に、

(一)象形 (二)指事 (三)会意 (四)形声 (五)転注 (六)仮借かしや

の六種に分類される。ただし、(一)(二)(三)(四)は漢字を構成の面から見た分類であり、(五)と(六)は漢字を使用する面から見た分類であり、(一)(二)(三)(四)と(五)(六)とは性格がちがう。したがって、(五)(六)をはぶいて、(一)(二)(三)(四)の四つに分類する方がよいかもしれない。

(一)象形——象には「かたどる」という意味があり、象形とは物の形をうつしとった絵を単純な線で表した文字。たとえば「目耳木鳥馬」など。

(二)指事——具体的な形がないために形をうつしとることができない事がらを点とか線で指し示めた文字。たとえば「一二上下本末」など。

(三)会意——会意とは意味をあわせるということで、二、三の漢字をあわせて新しい意味を表した文字。たとえば「林森男炎鳴」など。「辻峠風」などの日本でつくられた、いわゆる国字のほとんどがこの中にはいる。

(四)形声——音をあらわす要素(音符)と意味をあらわす要素(意符)とからなる文字で、漢字の九割近くがこの中にはいる。ただ、音符だからといって音だけをあらわしているわけ

ではなく、ほとんどの場合、音と同時に意味をもあらわしている。たとえば「偏遍編構講溝」など。

(五) 転注——ある漢字の意味を他の意味に転用する方法。たとえば音楽の「楽」をたのしいという意味の「安楽、快樂」などにも用いる。

(六) 仮借——ある物事の意味を他の文字の音と形をかりてあらわす方法。たとえば、そむくという意味の「北」を方角をあらわす「東西南北」の「北」として用いる。

部首の呼び方と意味 部首が意味を知る手だて

漢字には上下左右に分けられないものもあるが、左右に分けられる場合、その左半分にあたるのがへん（偏）、右半分にあたるのがつくり（旁）であり、上下に分けられる場合、上の部分がかんむり（冠）、下の部分があし（足）である。また、上部から左方にかけてつつむものをたれ（垂）、左方から下部へかけてとりまくものをによう（繞）、四方か三方、または上方から右方にかけておおうものをかまえ（構）と言う。

漢字のおおよその意味を知るには、まず部首の意味を知ることが大切である。そこで、ここでは主な部首の呼び方と意味を学習したいと思う。まず部首、ついで呼び方、意味、その部首が使われている漢字、の順に示すことにする。（↓印の下に示した漢字は上記の部首に所属しているとは限

らない)

一 たてぼう…一本の縦線で、上下につらなる、つらぬく意。↓中串玉

乙 おつ・おつによう…上へ伸びられない形で、おさえられてとまる意。↓乞乱乳乾

」 はねぼう…下がまがったかぎの形で、まがった金具の意。↓了予事丁

イ (人) にんべん・ひと…人が立っている形で、人の意。↓休体化作

ハ はち・はちがしら…左右に分かれる形で、分ける意。↓分公兵共

口 けいがまえ・まきがまえ…おおう形で、おおい、さかいの意。↓内再冊

ン にすい…氷がわれてひびがはいる形で、氷にかかわることを示す。↓冷凍准凝

几 つくえ…人がよりかかる台の形で、つくえ、よりかかりの意。↓机凡冗処

リ (刀) りつとう・かたな…かたなの形で、刃物にかかわることを示す。↓分券刻別

力 ちから…手を下げて物を持ち上げようと力を出している腕の形で、つとめる、はたらくの意。

↓加助労努

匚 はこがまえ…物をしまうはこの形で、はこの意。↓巨匡匠

匚 かくしがまえ…かこう形で、おおう、かくす意。↓区匹医匿

十 じゅう…棒を十のたばにまとめた形で、十、多いの意。↓千卒協卓

厂 がんだれ…けわしい山やがけの形で、がけにかかわることを示す。↓原厚歴厭

又 また…「手」の字が変化したもので、右手の形。手、手で何かをする意。↓友反受蚤

口 くち・くちへん…口の形で、口、ことば、あなの意。↓呼吸吹鳴

口 くにかまえ…まわりをかこむ形で、かこい、かこむ意。↓因困国囚

土 つちへん…草木の芽が土の上に出た形で、土に關係があることを示す。↓地堀坑埋

又 ふゆがしら…足の形で、足にかかわることを示す。↓冬処各變

大 だい…人が両手両足を広げて立つている形で、大きい意。↓太天央奔

女 おんなへん…女の人がひざをついている形で、女にかかわることを示す。↓娘婦嫁妹

子 こへん・こ…子供の全身の形で、子供にかかわることを示す。↓孫学孝孤

一 うかんむり…家、屋根の形で、家、屋根、おいなどの意。↓家宿室寢

寸 すん…手にしるしをつけた形で、手にかかわることを示す。↓対射村寺

小 しょう…三つの小さい点で、小さい、こまかい意。↓少尚肖消

山 やまへん・やま…山の形で、山にかかわることを示す。↓峰岩崩峠

川 (川) かわ…水が流れる形で、川の意。↓州洲巡順

工 たくみへん・たくみ…板にものさしをあてている形で、物を作る、作る人の意。↓巧差功左

己 おのれ…人が立ちあがろうとしている形で、ひざまずいている人にかかわることを示す。↓忌

記起紀

巾 はばへん・きんべん…のれんのように布がたれている形で、ぬのにかかわることを示す。↓幅

布市帆